fahrrad.markt.zukunft.（自転車市場の未来展）参観報告
及びフランクフルト市内自転車小売店調査

1.fahrrad.markt.zukunft.（自転車市場の未来展－フランクフルト開催）

標記展示会は、ドイツ国内ユーザー向けに東部、北部及び南部の 3 か所で開催されてきた。

北部のブレーメンと南部のカールスルーエの開催は変わらないが、本年より東部はライプツィヒからベルリンに開催場所が変更となり、さらに中部のフランクフルトが加えられ、年 4 箇所開催となり、より効果的にドイツ全土を網羅する形となった。

【fahrrad.markt.zukunft.（Frankfurt)】

主催：　Messe Frankfurt、velokonzept saade GmbH

会場：　Messe Frankfurt

会期：2009 年 11 月 13 日(土)～ 15 日(日)　10:00～18：00

使用ホール：　※ホール 3　18,000 ㎡（昨年 14,000 ㎡）

入場者数：　※16,300 人（前年 14,000 人）

出展社数：　自転車展 34 社、旅行観光展 271 社（昨年 220 社）

※数値は自転車、旅行観光の両展合計、昨年は旅行観光展のみ

メッセ・フランクフルト

ホール 3

フランクフルト会場は、自転車単独の展示会ではなく旅行や観光に関する展示会「VIVA Touristika& Caravaning」との合同開催であり、会場へ至る案内看板などは旅行観光展のものばかりで自転車展の案内は見られなかった。メッセ場内のホール 3 に辿り着いてようやく自転車展開催を確認できた。本年は初回でやむを得ないのかもしれないが、来年以降は自転車展の来訪者へ向けた、より分かりやすい広報周知が必要である。

展示ホール 3 内部は旅行観光展の出展者が多く、自転車展は一部フロアを間借りしている形態となっており、自転車展の出展面積はホール全体の約 2 割にも満たない。更にそのうちの 3 分の 1 は電動アシスト車の試乗コーナーが占めており、自転車関連の出展者は出展ガイドから集計すると 34 社と少ない。

しかしながら、同展は特に電動アシスト車の出展に力を入れており、電動アシスト車ブラ

ンドとしてKTM、カークホフ、R&M、フライヤー、ダイヤモンド、コガミヤタ、ラレー等とその規模に比べ充実していた。更にZEGは取り扱う電動アシスト車を展示する専用小間を出していた。一方でスポーツ車の主な出展者は上記 KTM、コガミヤタが取り扱うほかは、シンプロンが小間を構えていたが、一般の自転車展で見られるカーボンフレーム等の高級なMTBやロードレーサーなどはほとんど見られなかった。

KTM

コガミヤタ

ラレー

フライヤー

平日ということもあり、来場者は旅行観光展が目当ての中高年層が多く、高級スポーツ車に関心を持つような年齢層や熱心なサイクリストの姿は少なかった。しかし、数多くの来場者が電動アシスト車を熱心に見て試乗をする姿を多々見かけ、旅行観光展の来場者として想定される年齢層をターゲットにした効果的な共催であったといえる。

自転車展としてはまだ規模は小さいが、ドイツ中部地域を代表する都市圏フランクフルトには潜在的ユーザーも多数見込まれ、昨今の電動アシスト車需要の高まりも踏まえ、電動アシスト車を中心に据えた自転車展として、今後どのように発展するのか大変に興味深い。

なお、同展は来年も同じく旅行観光展と共に2010年11月12日～14日、フランクフルトの同所にて開催予定である。

ZEG の EPAC 専用ブース

電動車試乗コーナー

2.フランクフルト市内自転車小売店調査

調査店舗①

店舗１階は主に部品、付属品売り場となっており、2 階には MTB、ロードレーサー及びクロスバイクなどのスポーツ車が並び、その姿は圧巻であった。3 階はシティ車、トレッキング車、折りたたみ車及び電動アシスト自転車の売り場、地下１階は幼児車、子供車およびトレーラー、幼児用座席などの売り場である。各階毎の自転車の陳列数は 100 台を超え、総計すると全体で 500 台は優に超える自転車小売専門店の中でも大型店舗である。

調査店舗①

地下１階の子供車、幼児車売り場

同店は BICO（自転車関連製品の共同仕入れ組合）のメンバーであり、スポーツ車やトレッキング車は大半が STEVENS で占められていた。さらに VSF（自転車小売組合）推奨の vsf fahrrad のシティ車やトレッキング車も黒のフレームを中心に 30 台程あり、それらの価格帯は他社の同様車種と比べてやや高めである。電動アシスト車はフライヤーや R&M などが中心。合計で 30 台近い台数があり、更に１階会計付近やショーウインドウにはフライヤーの電動アシスト自転車が飾られ、同店主力商品して注力していることも伺えた。更に一階の店舗の裏側には別途、整備場も有しており、同店内容の充実ぶりには目を見張るものがある。

1 階は部品、付属品が充実

2 階スポーツ車売り場

3 階のシティ車、電動アシスト車売り場　　vsf fahrrad

調査店舗②

MTB、ロードレーサー等のスポーツ車を扱い、高級～中級車はトレック、G フィッシャー、中級～入門車は GHOST を中心に 30 台程の小型店舗。一人で切り盛りする女性オーナーのお勧め品はトレックのフラットハンドル車やシングルスピートの街乗りレーサー車であった。現在、インターネットやチラシなどの広告宣伝は費用がかかるため行っていない。今回、デュ

ッセルドルフから、どのようにして店の所在を確認できたのか大変不思議に思われたが、他店へ向かう途中に偶然通りがかったものである。同店は女性ならでは感性で店内を飾られ、取扱う商品にも特徴が見られる個性的な店舗であった。

調査店舗②

トレックの MTB が中心

入口外の安売りコーナー

一押しのシングルレーサー

調査店舗③

フランフルト中央駅から 2 つ目の近郊電車 S バーンの停車駅に隣接する ZEG（自転車関連製品の共同仕入れ組合）会員店。売り場面積はさほど広くはない小型店である。MTB とロードレーサーなどのスポーツ車は 30 台余り、高級車はシンプロン、中級～入門車は BULLS という構成。シティ車、トレッキング車はペガサスを中心に 10 台程。なお、電動アシスト車は店頭になかった。同店はシンプロン特約店であり、フランクフルト自転車展のシンプロンブースに、同店オーナーの御子息が今、まさにアテンド中であった。

オーナーは奥にある別棟の整備場でシンプロンの新車を組み立て作業中で、売り場の店番は夫人が行うという家族経営の店であった。その整備場は同時に複数台の自転車を取り扱える広さを持ち、場内には十分に使い込まれた工具や機器が並び、また店頭には古いロードレーサーや木製リムの自転車なども飾られ、同店が長らく自転車店を生業としていることが伺えた。

調査店舗③、売場の様子

整備場の様子

調査店舗④

同店の最寄り駅はフランクフルト中央駅となっているが、徒歩で行くには駅からやや離れた場所にあり場所的には便利とはいえない。訪問時には店舗入口は閉まっており、奥の整備場を訪ねた。ちょうど 2010 年モデルを組み立て作業中で、ここにも完成車在庫が 50 台程あり、PUKY の子供車は主にこちらに陳列されていた。

調査店舗④の様子

店舗奥の整備場

シングルスピード車もあり

店頭の MTB はチェッカーピッグ、ダイヤモンドバック、CONWAY が主で 50 台程。シティ車、トレッキング車は BBF やパンサーなど 20 台程度。他、ダホンの折りたたみ車もあったが、電動アシスト車は旧モデルのパンサーが 1 台のみ。今後も積極的に扱いを増やす予定はないとのこと。

なお、同店主曰く、フランクフルトでは自転車盗難が多く、現在、いくつかの小売店と連携し、販売時に盗難補償をつけて販売を行っていると述べていた。同店は有名な欧米ブランドの高級スポーツ車よりも、より消費者が求めやすい価格設定のブランドから中級～入門車を主体に扱っている印象を受けた。

参考；店舗⑤

同店舗は生憎、訪問時間と店舗の昼休みが重なり、店内を見ることができなかった。住宅街に位置する中規模程度の店舗とみられる。外から覗いて見た限りでは、主要ブランドはジャイアントやダービーサイクルのユニベガなど。取扱い車種はスポーツ車、シティ車、トレッキング車及び子供車と幅広く、更にモペッドの取り扱いもあった。

以　上

（デュッセルドルフ事務所）